

ATSUMA LOVERS

秋晴れに包まれた昨年10月28日、応急仮設住宅から本郷きずな団地に引っ越しました。自警団連合会長や社会福祉協議会理事などの要職を務めた経験から住民の信頼も厚く、団地内でも「頼れるおじいちゃん」として入居者から慕われています。



本郷きずな団地で暮らす
Vol.17 やまぐち きよみつ
山口 清光さん(84歳)

災害公営住宅で人の輪を育てる

以前、脳梗塞を患いましたが、術後は順調に回復。玄関付近に置かれたパソコン3台を駆使して、日記をしたためています。外出先で撮影した写真に文章を添えたり、コンパクトカメラで撮影した動画なども取り込み、大容量媒体にデータを保存しています。「応急仮設住宅で開いてもらったパソコン教室に参加したら、すっかり

ハマっちゃってさ。操作を覚えたら、文字を書くのは楽だしね。今では、大体の操作はできるよ」と、笑顔が返ってきました。
住民同士のコミュニケーションも盛んです。花壇を作ったり、互いに手土産をおすそ分けし合ったり。「この間は、石川県から送られてきた梨を配ったら、『おいしいトマトできたよ』って届けてく

れたんだ。持ちつ持たれつで、皆仲良く暮らしている。日常生活の中で、互いを気遣っているから住みやすいよ」と笑顔が弾けました。
「震災はこたえたな。でも、嬉しいこともあったよ」。応急仮設住宅で迎えた最初の大晦日。当時は、余り知らない住民が多かったため、口火を切って、皆で年越しを迎えようと発案しました。「25人ぐらいが集まってくれた。涙が出るほど嬉しかったよ。時々、日記を読み返すこともあるよ」。

今春、愛車の自転車で富里の自宅跡からバケツに土を入れて持ち帰りました。土に交じっていたコスモスの種が発芽し、背丈ほどに成長してピンク色の花を着けました。コスモスは、地震で犠牲になった妻が好きな花でした。「見事だろう。俺の自慢だね」。
住民との穏やかな日常や自慢のコスモスの開花は、日記の中でも輝いていました。

あなたにとっての
愛すべき厚真を投稿してください



フェイスブック
@atsumatownhokkaido



Instagram
atsumalovers

ハッシュタグ#atsumaloversをつけてフェイスブックまたはInstagramに投稿してください。

ATSUMA LOVERS